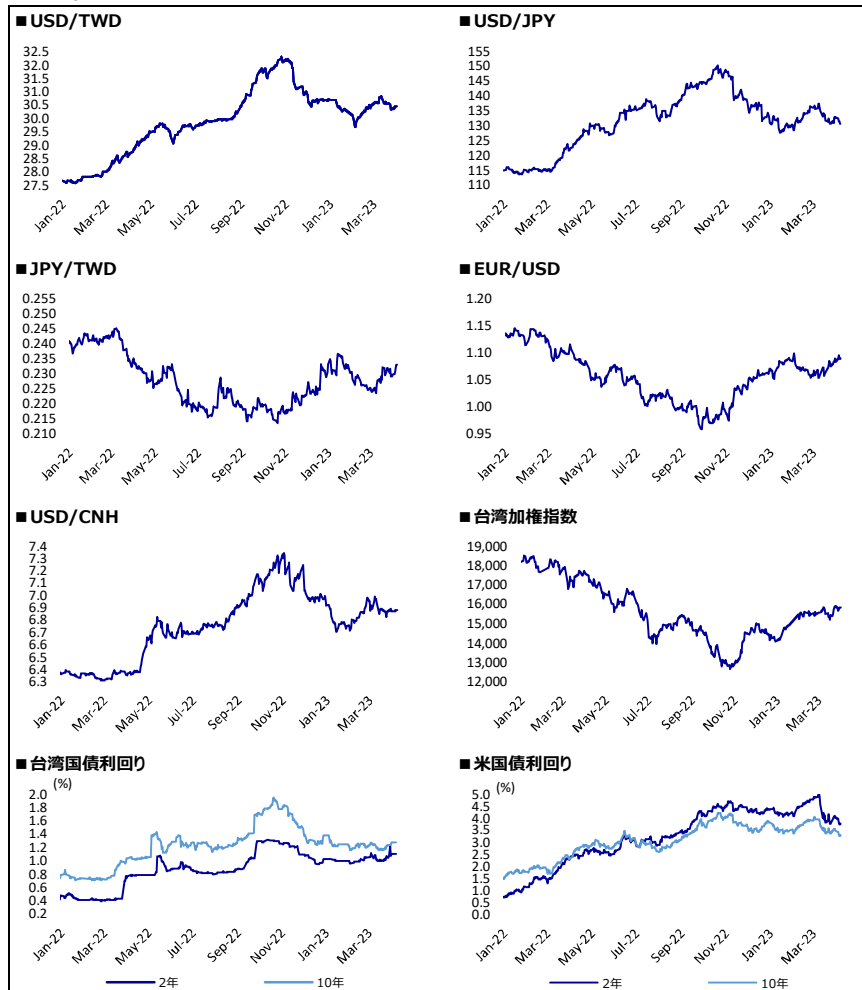


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初3/27は30.400でオープン後、30.43付近まで上昇するも輸出企業のドル売りが散見され、上値は重い展開に。3/28は月末の輸出企業のドル売りもあり、一時30.290まで下落。しかし、輸入企業のドル買いニーズも強く、外資のドル買いも加わると、30.38付近まで戻した。3/29はレンジでの推移が続いたが、米金利が高止まりする中、海外への投資資金送金や外国人投資家のドルの買い戻しから30.47付近まで上昇。3/30は月末で実需のドル買いが強まり、30.490まで上昇。その後は売り買い交錯し、揉み合う展開となった。3/31は台湾株の上昇と共に台湾ドルが買われ、30.40付近まで下落したが、連休を控えドル送金ニーズも強く、30.46付近まで買い戻された。最終的には先週比0.2%ドル高台湾ドル安の30.454で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は298.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初3/27は130.58でオープン後、破綻した米地銀の買収合意との報道を受けてマーケットに安心感が広まると米金利が上昇し、リスクオンの流れから欧米株が堅調に推移する中、ドル円は131円台後半まで上昇。3/28は実需の売りもあり、130円台前半ばまで下落。その後は揉み合う展開となったが、米3月消費者信頼感が予想を上回ったこと等からドルが買い戻され131円台前半まで上昇。しかし、バーFRB副議長から銀行の規制強化の発言があると、上値が重い展開が続いた。3/29は月末の実需のドル買いや金融不安が一旦和らいだことからリスクオンの流れもあり、132円台まで上昇。その後も米株が堅調に推移する中、132円台後半まで上昇した。3/30は実需の売り買いが交錯していたが、堅調な株式市場や依然低位にとどまる米新規失業保険申請件数を受け、米金利上昇とともに132円台後半で推移。3/31は年度末の実需のドル買いから133円台前半ばまで上昇。一巡後は132円台に下落するも再度上昇すると、一時133.60をつけた。しかし、米2月PCEコアデフレーターが予想を下回るとドル円の上値は重くなり、最終的に先週比1.6%ドル高円安の132.81で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.400-30.650
今週は上昇すると見込む。連休中に景気後退懸念が高まっており、株安台湾ドル安の流れが続くと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：129.00-132.00
今週は上値が重い展開を見込む。足許の米国の経済指標は冴えない内容が続いており、今週末に控える米雇用統計も弱い結果が出た場合は、米金利の低下と共にドルが売られやすいであろう。

今週の予定

4/3 (MON)	米3月ISM製造業景気指数
4/4 (TUE)	米2月JOLT求人件数、米2月製造業新規受注
4/5 (WED)	米3月ADP雇用統計、米3月ISM非製造業景況指数
4/6 (THU)	
4/7 (FRI)	米3月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。